



行所 館民 館 会
 発 屯 公 民 館 員 会
 田 屯 公 民 館 報 所 社 内
 館 編 集 人 報 委 員 会
 屯 公 民 館 報 所 社 内
 新 飯 田 市 商 工 会 館

人口	5,694人
男子	2,746人
女子	2,948人
世帯数	1,483戸
(1月1日現在)	

地区民の総意と工夫による 新しい竜丘づくり

新しい年を迎え、これからの生活に多くの関心が寄せられ、豊かな地域づくりをどう進めるか一層の努力がはらわれるところだ。今年、行革推進にからむ、福祉の見直し等により、福祉の面でも厳しい情勢の中でスタートしました。さらに今年には選挙の年であり、私たちの生活を地域を考慮の上で当然、政治への関心を深めなければならぬ年でもあります。

『厳しい複雑な社会であればあるほど私たちは自分の生活に不安をもち、その展望を求めざるを得ない。しかし現実には、その「問題の所在」がわからず、その展望も複雑である。したがって積極的に地域課題や、生活課題に目をむけ、それらを掘りおこし、課題化し、住民自らがその展望の糸口をたぐっていかねばならない。』

実った連夜の特訓

昨年十一月十三、十四日飯田市民館に於いて第三回飯田青年文化祭が行なわれました。この青年文化祭は、飯田市内の青年団をはじめ、手話サークル、子供劇場などの青年サークル十三団体が日頃の活動を発表し合い、お互いの親睦を深めようと毎年行なわれているもので、当日は演劇、コーラス、人形劇など、各団体に数か月に及ぶ練習を経て、組合を通じて集金する事になり、地区民の協力を望んでいる。

特殊寄附については、自治会・財産区・PTA役員が中心となり、十二月中旬に地区内の協力者にお願ひに廻り、来年一月には県外の協力者の方を廻る予定である。校舎改築工事中という環境の中でも子供達は明るく学校生活を送っている。



青年の心、白馬に乗せて一。

この成果を十分に発揮し、会場は若者の熱気であふれんばかりでした。竜丘青年会ではこの文化祭に全員で取り組もうと、演劇、コーラス、展示を発表し、意欲的な活動がなされました。演劇においては、久郡小海町で行なわれた県青年文化祭には飯田の代表として参加しました。又、根ざした文化活動が高く評価され、コーラスにおいて、日頃の歌声活動の成果を発表する事が出来、十一月二十七日、二十八日に南佐テンポールをつくって展示しました。

小学校 寄附 一戸当たり四千円

学校から安城線を通り、時又の島部落で県道時又中村線を通り、島常会集会所の前から西沢川へ落す事になった。

小学校改築にともない、備品・施設等の購入に必要な資金調達の為、小学校改

をつかんでいける「場」をつくること、即ち、住民が自由に学習、交流ができる場を保障していくことが重要な役割である。』と公民館方針は掲げている。

まさに私たちの生活や、地域を明るく住み良いものにしていくことは、この具現化であり、住民一人ひとりの問題意識や、要求から始まります。こうした取組みの集大成が小学校改築であるわけです。

小学校二期工事は児童たちの大きな夢がふくむ中、学校関係者を始め住民の期待の中で、現在急ピッチで三月竣工へ向けて進められています。

竜峡共同調理場見学記

竜峡共同調理場は、竜江小学校の北側に少し南北に長い建物としてあります。十一月十日、竜丘小学校PTAは、二十名でこの調理場を見学しました。

この調理場は、小学校六校、中学校二校・二一三名の給食を、栄養士二名、調理員九名で作っています。調理員一人平均二三五分を毎日作っていることになり、到着した時は、湯煙の中、調理の真最中で、まさに戦場といったところで、汗をくい止めるため、腹にタオルを巻きつけてのことで、仕事の内

鉛筆かついて 戦争はごめんだ!!

「大なる運命に從いて多くの戦友と別れる日が来た。すべてが夢に似て、又現実なり。然しここに至れるなり。事態をよく観察してお互いに新たに生きん。」

桐林、サンロードの前、森山昇さん宅には、太平洋戦争当時の思い出の品々が今も大切に保存されている。その中に「寄せ書き」がある。昭和十九年の春、近所の人や勤労奉仕の学生が、武運長久を祈って満州にいた森山さんに送ったもの。一億一心の戦争標語も見え、その人達も今や熟年。もう四十年が経っている。更に全国から集めたという「お守り」、腹巻きにもなる「千人針」がある。これらははじめて拝見しているうちに、思わず身震いして合掌せざるにはいられなくなった。きつと、まだ折りが生きているのだ。

身につけたい救急法

昨年十月二十六日、竜丘公民館駐車場に地震体験車「起震車」がやってきた。一口に「震度五とか震度六」といって、実際はとも立っていられない程である。起震車で地震を体験することによって、地震の恐ろしさを身をもって知ることが、地震対策の第一歩です。

又、地震を始めとする災害、自動車事故や階段から落ちた等の家庭内事故に、いつ見舞われるかも知れない昨今、自らや家族を守る為に、ぜひ身に付けておきたい身近な防災対策に、救急法があります。

その救急法講習会が、十一月二十九日に竜丘公民館に於て開かれました。これ

を強めたいものです。ここで地域の婦人、青年の活動や意見を紹介します。青年会では、地域の向上を期する中で、住み良い社会を作るため、学び、語り合い、①学習教室、②健康教室、③手作り教室と三つの教室を主体に活動しています。それぞれ、年金、選挙学習、家庭での健康管理、親子のふれ合い活動、ボランティア活動としてお年寄りへの声かけ運動、六十五歳以上の一人暮らし老人への「もしもの時に」のチラシ配布等、婦人問題のみならず地域、社会福祉への取組みにも意欲的なところをみせています。睦会では、育児について

の学習、親子のふれ合い活動を行う中で児童館建設要求が強くなっています。青年会では、地域に根ざした活動を重視する中で、青年としてもっと地域の問題をさぐる様な話し合いの必要を認め、グラウンド、宿泊研修施設の設置要求をどう取組んでいったらよいかの糸口をつかもうとしています。

この様に地域、生活課題を掘りおこし、さらに社会福祉にも目を向け、その具現化には、厳しい社会の動きに敏感に対処し、住民総参加の創意、工夫ある取組みが求められているのです。

を作っている。復員して家に帰った時、戦地から筆まめに送った数多くの書簡をお父さんがすべて大事にとっておいてくれた事が、一番感激したという。親の子を思う、そして子が親を思う気持ちはどれほどだったか、察するに余りある。今、国防論議が国会で花

を返す。無知な家庭菜園から不健全な野菜を作ったり、有機農産物なる美名に振り回されてはならない。人間死ねばその体は土に還る。一方、小学校では水洗便所になっても、汚泥は肥料として食品になる。以前と変らない自然循環が行なわれる。

一九六五年ヨーロッパでは、窒素肥料の多いホウレン草のかん詰が原因で乳児一人が死亡、十五人が中毒を起したという。昔のマンガではないが、ポパイの様な強大な輸出大国になった日本、十数年のツケでホウレン草を沢山買わなければならない。この迫られる農産物自由化。国内農業へ一層の合理化を要求され、土地生産性を上げる為、多肥栽培や大型機械での踏つけで土を酷使する。都市化が進み土が減り人口は増える。土は金で評価され、健全な土を培って来た貧しい農民はそれに目がくらむ。

十数年後、外国農産物による排泄物で窒素分の多いホウレン草のかん詰にならぬ様、自然の正常な循環と遅れている土の保全を、健全な食品と健全な体を作る役割からも望む。



思い出の品……しかし、くり返すまじ!

昨年不順天候で大きな被害が出た。干柿はカビだ。米は作況指数九十を割り、モチ米の被害は大きかった。そして減反が緩和された。その偉大かつ行政を左右する自然の営み、今一度見直す必要がある。

私達の暮しに欠かせない空気・水・土。空気や水の保全部合は測定出来る。しかし、土にはそうした事が少ない。残念ながら土から生産された食品から評価されている。その為、肥料分や汚染度を調べても平面的にも立体的にも一定では無い。そして、一度汚染された土を改善するには莫大な投資がいる。無知な家庭菜園から不健全な野菜を作ったり、有機農産物なる美名に振り回されてはならない。人間死ねばその体は土に還る。一方、小学校では水洗便所になっても、汚泥は肥料として食品になる。以前と変らない自然循環が行なわれる。

爆笑抱腹の区民祭

区民センターこけら落とし

桐林

昨年十一月二十三日、桐林区民センターにおいて桐林区民祭が開催された。

この日はさいわい好天に恵まれ、出足も好調で朝早くから詰めかけた区民で一杯だった。

昨年3月完成した区民センターのこけら落としを兼ねた区民祭は、今回が初めてのこころみで、公民館桐林分館が中心となり実行委員会を結成し準備をすすめて来た。

午前中は、二階ホールで園児・児童の図画作品展示をはじめ、一階の各室には老人クラブのひょうたん、など地区内各クラブによる力作が、来る人の目を惹きつけていた。

また青年会による綿飴販売、桐林商売会によるバザーも行われ、子供から老人まで楽しんだ。

つづいて、午後からは区民祭メインの式典が行われ開会に続き下平貞区長のお話、区民センター落成について備品など寄贈された方々への感謝状の授与などがあつた。この式典には区内老人が招待され最前列の席についていた。



盛況だった桐林区民祭

式典後、演芸大会としてクラブ発表と常会演芸が行われ、トップバッターの区民祭実行委員会の小林栄さんによる俄屋玄藩を皮切りに、民謡・詩吟・大正琴と各クラブの日頃の練習の成果を発表する場となり、一方、各常会による演芸では爆笑抱腹と、広い会場が区民の意気で盛り上がり、午後五時の閉会予定が延長される程の盛況であつた。

また来年度からも、恒例として区民総出の催しを、つづけていきたい。

グループ紹介

バレーボールは年々ますます盛んになって来たスポーツで、身近な所で、ママさんバレーなどと、よく耳にします。そのバレー人口拡大と共に、小学校の子供達の中から「是非クラブを作ってほしい」と要望があり、保護者会が中心となり昨年四月に、四年生から六年生を対象として「竜丘小学生バレーボールクラブ」が発足しました。コーチには現役の社会人クラブ所属の方をお願いし、毎週火曜日の夜六時より七時半まで小学校体育館で練習しています。用具等の準備は保護者会の方二名ずつ交替で行なっているそうです。

羽ばたけチビッコ

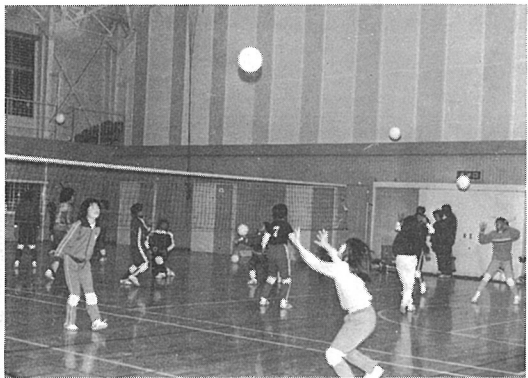
竜丘小学生バレー

夜の楽しみに待っている様です。

飯田下伊那には、小学生バレーチームの数も多く、チビッコバレーボール大会も行なわれているようで、昨年七月に行なわれた第一回飯伊バレーボール大会で

このクラブは六人制バレーを取り入れており、サーブレシーブの基本から教えている。指導にあたるコーチの方は技術は二次、体力づくり、礼儀作法、友達づくりに重点を置いているとのこと。子供達も火曜日の練習を二回にして頑張っている様で次は優勝を狙ってもらいたい。

発足当初七名だった人数が今では二十名にも増えたと、これからますますと続けたい声が大半でした。



バレーボールって楽しいなあ。

戦力アップで 来年こそは!!

去る十一月三日、竜丘小学校体育館に於いて、「地区代表常会対抗バレーボール大会」が行なわれた。これは、毎年盛り上がりを見せた竜丘地区運動会が、今年は校舎改築のためにグラウンドが使用できず、かわりに行なわれた。

試合は、九人制で三セットマッチ。体育館のコートを、男女一面ずつ使い試合開始。結果から見ると、男女共優勝は、時又南チームと女子の決勝戦では、時又同士の対決となり実力の差が表われたように見える。が、そこは各チームとも予戦を勝ち抜いてきただけあって、セットスコア、二対一という試合が半分近くあり、なかなかの熱戦であつた。又バレーボール熱が盛んな当地区では、バレーボール人口も増え、各チームともバレーボール経験者が数人おり、試合巧者ぶりが発揮された。

当初、運動会のかわりとして今年一回限りの予定であつたが、「来年こそ」と優勝を夢見るチーム、あ



白球を追って熱戦につく熱戦。

募金御礼

先日皆さんに御協力願いました複十字シール募金額が、竜丘地区で十三万七千四百四十五円になりました。このお金は結核予防の為に検診用機械や、レントゲン車の購入、地域の健康管理の診断等に使用されます。本日に沢山の御協力ありがとうございました。紙面上をかりまして厚く御礼申し上げます。

先日は、交流をはかり親睦を深めるためにも、卓球やバドミントンのように地区対抗試合の一つにしてほしいとの声もあり、体育委員会の取り組みが注目される。三位までのチームは左記のとおり。

- (男子の部)
- 優勝 時又南チーム
 - 準優勝 寺下・新井原混合チーム
 - 三位 上川路チーム
 - 安城チーム
- (女子の部)
- 優勝 時又南チーム
 - 準優勝 時又北チーム
 - 三位 北平チーム

静鉄局より感謝状

時又老人会(白寿会・河井善一会長)では、長年にわたる時又駅の美化運動に對して、十月十四日付で静岡鉄道管理局より、局長名で感謝状と記念品(置時計)が贈られました。

白寿会は会員八十三名で構成され、年間行事の一環として、時又駅・が流公園の美化運動を続けています。年に数回、会員に通知を出し、出れる人に出てもらうという方法で、午前九時からお昼頃まで作業をします。その後、車座になってお茶を飲みながら、老人会の話やよも山話に花を咲かせ、会員相互のコミュニケーションをはかっています。

手拭いをかぶり、手に手にホーキや鍬を持ちながら、腰が曲がりかけた、おばあちゃんやおじいちゃんの無料奉仕が、四季折々の花を咲かせ時又駅を明るくし、利用者の心をなごませていきます。

白寿会ではこの度の感謝状授与が励みになったと一同喜んでいきます。日頃、気が付かない所で、こんな善意が続いているのです。作業をしているおじいさんやおばあさんを見かけたら、「ご苦労様」と一言、声をかけましょう。



ばあさんや、孫も大きくなったなあ。

昭和57年度 竜丘女子バレーボールリーグ戦成績結果表

順位	チーム	勝	率	セット率
1	ばら	18	1.000	17.0
2	パワーズ	17	0.888	8.5
3	レインボー	17	0.777	3.75
4	ナイスミドルズ	16	0.666	2.167
5	ひまわり	15	0.555	1.375
6	さくら	14	0.444	0.9
7	婦人会	13	0.333	0.583
8	上川路	12	0.111	0.313
9	長野原	11	0.111	0.25
10	青年会	10	0.111	0.188

あの人の人

- 十月十日、十二月七日届出
- 永遠に幸あれ
 - 林 重直 長野原
 - 藤本 佐枝子 川路より
 - 木下 可楽 駄科
 - 中平 千栄子 駄科より
 - 市川 増雄 駄科
 - 丸子 清美 岐阜原より
 - 大平 峰男 鼎町
 - 中田 康子 駄科より
 - 岡村 俊 桐林
 - 福沢 津多子 下条より
 - 福澤 美幸 高森町より
 - 林 保彦 桐林
 - 川倉 淳子 鼎町より
 - 伊原 勝 高森より
 - 原 千津子 高森より
 - 古田 保 恵那市
 - 木下 弘子 駄科より

この人の人

- 酒井 輝夫 時又
- 中塚 玲子 高森より
- 土屋 幹雄 時又
- 竹村 祐子 豊丘より
- 三橋 弘隆 松戸市
- 長江 圭子 駄科より
- 今村 健 上川路
- 藤澤 貞子 天龍村より
- 片山 徹 時又
- 藤澤 義子 駒ヶ根より
- 伸びよ 健やかに
- 氏名 住所 父名
- 福興 理恵 信尋
- 熊谷 真吾 和郎
- 下平 剛大 元治
- 塩澤 保路 正博
- 熊谷 朝美 久
- 中島 智美 修一
- 吉田 宗司 賢二
- 下平 幸 孝雄
- 関島 弘幸 利文

わたしのおばあちゃん

三年 岡島あい

わたしのおばあちゃんは、野の花や、本を読むのがとても好きです。よいことなら、なんでも好きです。

おばあちゃんは、わたしがよくわからないことを教えてくれます。よく、むかしの子どものころを話してくれました。むかし、天竜川がとてもきれいで天竜橋から、魚が見えたり、泳いだことや、自転車に乗っていたら、おばあちゃんのお父さんに見つかって、「女が自分でん車にのるもんじゃない。」と言っておこられた話や色々、話してくれる。わたしは仕事ずきで、おばあちゃんといっしょに、青じそをこいだりします。

けいろうの日に、わたしは、おもしろいゆめを見た。はましまで、八十円のろうじんむぎのくつしたを売っていたので、わたしのお金を出して、買ってあげたいゆめを見た。

おばあちゃんは、あまりじょうぶではなく、なおったかと思うと、また、なってしまうたりする。おばあちゃんの病気が、足がいたくなったり、せきが出る病気です。

九月十五日のけいろうの日に、おばあちゃんに、四つ葉のクローバーを取ってあげました。おばあちゃんには、「しあわせになれる。」と言ってとてもよろこんでくれました。おねえちゃんには、ノートとえんぴつをあげました。おばあちゃんはまだまだ、勉強をしたり、おうちの仕事も手つたりして、いつまでも元気でいてほしいと思います。

今、おばあちゃんは、七十二才です。体をだいたいにして、ながいきしてほしいです。

関島 かおり 駄 新一

下平 さやか 時 英敏

下平 和幸 時 芳昭

鈴川 勝 駄 格

澤柳 和宏 時 秀人

木下 征治 駄 竜夫

●御冥福を祈る

氏名 部落 年令

下平 英俊 駄 男 73

中村 貞子 桐 女 51

久保田 幸一 駄 男 62

折金 喜と 駄 女 73

山崎 正市 駄 男 66

訂正とおわび

先号(第一七〇号)の『広報活動の一助に』の文中、『有価物回収還元金十万円。』とあるのは、『有価物回収還元金十五万円』の誤りであり、この場で訂正し、おわびします。